



公益財団法人日本体育協会
総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン(通常号)

平成 25 年度 総集編

< 1. 特集記事 >

テーマ別クラブ運営事例集

- (1) 将来を見据えた、計画性のあるクラブ運営
- (2) クラブが持つ集客力のあるプログラム
- (3) 女性の運営委員やリーダーが活躍しているクラブ
- (4) スポーツ少年団と連携しているクラブ
- (5) 既存施設を上手に活用しているクラブ
- (6) 地域の町おこしに貢献しているクラブ
- (7) 近隣クラブと連携しているクラブ
- (8) 障がいのある人のスポーツを支えるクラブ
- (9) クラブの PR がユニークなクラブ
- (10) 若い世代がクラブ運営に参画しているクラブ
- (11) 2020 年東京オリンピック・パラリンピックと総合型クラブ



公益財団法人

日本体育協会

INDEX

1. 特集記事

(1) 将来を見据えた、計画性のあるクラブ運営 [第90号 (平成25年4月22日発行)]

- 1) [NPO 法人 A-life なんかん \(熊本県\)](#) P4
- 2) [NPO 法人かみのやまスポーツクラブ \(山形県\)](#) P6
- 3) [菊川スポーツクラブ \(山口県\)](#) P8

(2) クラブが持つ集客力のあるプログラム [第91号 (平成25年5月20日発行)]

- 1) [NPO 法人スポネット弘前 \(青森県\)](#) P10
- 2) [楽々クラブ矢巾 \(岩手県\)](#) P12
- 3) [K-Friends \(徳島県\)](#) P14

(3) 女性の運営委員やリーダーが活躍しているクラブ [第92号 (平成25年6月20日発行)]

- 1) [鶴岡市民健康スポーツクラブ \(山形県\)](#) P16
- 2) [サン・スマイルいわで \(和歌山県\)](#) P18
- 3) [一ノ谷スポーツクラブ \(香川県\)](#) P20

(4) スポーツ少年団と連携しているクラブ [第93号 (平成25年7月22日発行)]

- 1) [はしかみ総合スポーツクラブ \(青森県\)](#) P22
- 2) [山辺の里スポーツクラブ \(山形県\)](#) P24
- 3) [NPO 法人へきなん南部スポーツクラブ \(愛知県\)](#) P26

(5) 既存施設を上手に活用しているクラブ [第94号 (平成25年8月20日発行)]

- 1) [NPO 法人おにすぼ \(北海道\)](#) P28
- 2) [コムスポクラブ東厨川 \(岩手県\)](#) P30
- 3) [熊本西総合型スポーツクラブ \(熊本県\)](#) P32

(6) 地域の町おこしに貢献しているクラブ [第95号 (平成25年9月20日発行)]

- 1) [佐野中央スポーツクラブ \(栃木県\)](#) P35
- 2) [クラブ香美 ING \(高知県\)](#) P37
- 3) [波佐見ルピナス倶楽部 \(長崎県\)](#) P39

(7) 近隣クラブと連携しているクラブ [第96号 (平成25年10月21日発行)]

- 1) [館林西スポーツクラブ \(群馬県\)](#)、[めいわスポーツクラブ \(群馬県\)](#) P42
- 2) [NPO 法人調和 SHC 倶楽部 \(東京都\)](#)
[NPO 法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット \(東京都\)](#)
[NPO 法人コミュニティネット SSC 大泉 \(東京都\)](#)
[NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF \(神奈川県\)](#) P45
- 3) [スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ \(岡山県\)](#)
[しらうめスポーツクラブ \(岡山県\)](#) P48

(8) 障がいのある人のスポーツを支えるクラブ [第97号 (平成25年11月20日発行)]

- 1) [NPO 法人新湊カモンスポーツクラブ \(富山県\)](#) P51
- 2) [筆の里スポーツクラブ \(広島県\)](#) P54
- 3) [高知チャレンジドクラブ \(高知県\)](#) P56

(9) クラブのPRがユニークなクラブ [第98号 (平成25年12月20日発行)]

- 1) [花館グリーンウインズスポーツクラブ \(秋田県\)](#) P59
- 2) [南部町総合型地域スポーツクラブ「スポnetなんぶ」 \(鳥取県\)](#) P61
- 3) [出水南どっとネット \(熊本県\)](#) P63

(10) 若い世代がクラブ運営に参画しているクラブ[第 99 号(平成 26 年 1 月 20 日発行)]

1) とうまスポーツクラブ(北海道)	P65
2) NPO 法人ウィル大口スポーツクラブ(愛知県)	P67
3) NPO 法人クラブおおづ(熊本県)	P69

(11) 〈第 100 号発行記念〉【対談】「2020 年東京オリンピック・パラリンピックと総合型クラブ」
[第 100 号(平成 26 年 2 月 20 日発行)]

◇対談者◇

○師岡文男氏[上智大学文学部教授(保健体育研究室長)]

○菊地正氏[NPO 法人高津総合スポーツクラブ SELF 副理事長]

1) 「オリンピック・パラリンピック」の魅力と1964年東京オリンピックの思い出	P71
2) 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定が持つ意味	P73
3) 地域スポーツや総合型クラブが 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてできること	P75

将来を見据えた、計画性のあるクラブ運営

〔 NPO 法人 A-life なんかん 〕

1 クラブと町体育協会が合併し、NPO 法人化！

「NPO 法人 A-life なんかん（以下、クラブ）」は、平成 17 年 1 月に設立した「南関すこやかスポーツクラブ」と、「南関町体育協会」が合併し、平成 24 年 7 月 25 日に設立しました。文化、スポーツ活動を通じて、住民の健康・体力の維持増進、地域社会の連携と明るく豊かな生活を実現するため、また子どもから大人までの競技力向上を目指すため、スポーツ環境のより一層しっかりとした基盤をつくり、スポーツにおける好循環を生み出す活動を展開しています。

クラブでは現在、28 の定期種目（教室）があり、なかでも中高年者が中心の山登り教室、小学生対象の夏場のスイムレッスン教室、芦原空手教室が人気です。町内の小・中学校体育館など 13 か所の体育施設で活動しています。

山登り教室



スイムレッスン教室



タグラグビー



2 スポーツ振興くじ (toto) 助成金の活用とクラブ基盤強化への取組

クラブの前身である「南関すこやかスポーツクラブ」は、スポーツを通じて、仲間と共に健康で生きがいに満ちた豊かな生活の実現と、将来を担う健康でたくましい子どもたちの育成を図ることを目的に、平成 17 年から活動を始めました。設立当初は会費と町からの補助金を合わせ 449 万円からスタートしましたが、設立 4 年目（平成 20 年）にクラブの財源をより安定させるには、クラブの周知と人気種目（教室）を増やすことが必要であったため、toto 助成金を活用することにしました。toto 助成期間中にはクラブとして以下の活動を行いました。

● toto 助成 1 年目〔 総合型地域スポーツクラブ活動支援事業 〕（平成 20 年度）

クラブを広く周知するためのイベント「スポーツフェスティバル」を開催し、著名な選手を招いてバレーボール教室の開催。

● toto 助成 2 年目〔 総合型地域スポーツクラブ活動支援事業 〕（平成 21 年度）

クラブマネジャー 2 名の常勤配置。外部講師を招いてコアダンス、ヨガなどを特別教室（月謝制）として開講。

● toto 助成 3 年目〔 総合型地域スポーツクラブ自立支援事業 〕（平成 22 年度）

「スポーツフェスティバル」の定例開催。さらに、スポーツ活動だけでは、安定財源を確保することは難しいと考え、南関町から運動未実施者に対する福祉事業の受託。

● toto 助成 4 年目〔 総合型地域スポーツクラブ自立支援事業 〕（平成 23 年度）

福祉事業に続き、南関町の介護予防事業の委託を受けるため、既存の受託業者に交じってプレゼンテーションを行い、クラブの目指す理念や方向性を評価していただき、平成 23 年度から介護予防事業（一次予防、二次予防など）を受託。

● toto 助成 5 年目〔 総合型地域スポーツクラブ自立支援事業 〕（平成 24 年度）

町体育協会と合併し、NPO 法人格を取得。定期種目（教室）活動においても、熊本県大会、全国大会へと出場する種目も増え、クラブで活動していた子どもの中から学校運動部活動で九州大会上位者を輩出するまでになりました。

3 平成 25 年度の財源について

toto 助成金を活用したクラブの周知により会員数も増加したことから、既に定期種目（教室）の指導者謝金と会場使用料は会費収入によって賄うことができています。また、これまで toto 助成金から支出していた外部講師を招いた特別教室については、toto 助成期間中に、受講者数も安定させることができたため、平成 25 年度から参加者数に応じた出来高制による契約の交渉ができています。クラブマネジャーの賃金については、平成 25 年度は総合型地域スポーツクラブマネジャー設置事業に申請しており、不足する分は町からの介護予防事業から支出を予定しています。

4 クラブに寄せられる期待と今後の展望

特にこの 2 年間で、地域の高齢者の体力面や精神面での充実について、住民からの声が多数寄せられています。現在、町内で何かしらの運動している人口は、介護予防事業を通して運動を実施している高齢者数と会員数を足すと、町人口の 10% (1,000 名) を超えています。

今後、さらに南関町のスポーツ振興を担う団体として成長するためにも、現状は加入率の低い中高年層や、人口比率の高い高齢者を取り込めるプログラム設定、また、少子化や教員の高齢化などにより成り立たない学校運動部活動もあるため、学校部活動との連携も課題です。

役員体制などの組織強化と自主財源の確保を確実なものにし、近隣の総合型地域スポーツクラブと連携した事業を行いながら、競技力向上・健康増進への取組を基本に好循環のスポーツ文化を生み、住民が協働で仲間と地域を創る機会をつくっていききたいと考えています。クラブのキャッチフレーズ「広がる未来、つながる地域」を、これからも着実に具現化させていきます。



5 他クラブへのアドバイス

財源確保には、会費の値上げも一つの手段ですが、クラブでは設立 3 年目（平成 19 年）に値上げをした際に会員数が減少した経緯があります。値上げを検討されているクラブは、助成最終年度ではなく前倒しで試行されることをお勧めします。

（NPO 法人 A-life なんかん 会長 原口 護）

クラブプロフィール

設立年月日：平成 24 年 7 月 25 日

前身体「南関すやかスポーツクラブ」は平成 17 年 1 月 23 日設立

地 域：熊本県玉名郡南関町

人 口：10,733 人（平成 25 年 3 月現在）高齢化率 32.8%（平成 23 年度）という高齢化が進んでいる町。

運 営：会員数 672 名（平成 25 年 3 月現在） 予算規模 約 2,300 万円（平成 24 年度）

特 徴：総合型地域スポーツクラブと町体育協会が合併して設立した団体。

専用の施設を持たず、町内の学校施設や体育施設で活動を展開する。

会員の構成はジュニア世代とシニア世代がそれぞれ 1/3 ずつを占める。

現在、町の介護予防事業を受託して、各地域で健康体操の指導を行っている。

連 絡 先：〒861-0803 熊本県玉名郡南関町大字関町 1324 番地 南関町公民館内

TEL：0968-57-9616 FAX：0968-57-9617

E-mail：info@a-life-npo.com

クラブ HP：<http://a-life-npo.com>

将来を見据えた、計画性のあるクラブ運営

〔特定非営利活動法人かみのやまスポーツクラブ〕

1 クラブの概要

「かみのやま総合型地域スポーツクラブ(以下、クラブ)」は、平成15年、クラブ設立に向けた検討を上山市より市体育協会に打診され、市民へのアンケート活動等を重ねた結果、平成17年に「かみのやま総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」を立ち上げました。日本体育協会の支援・指導のもと、2年間にわたり総合型地域スポーツクラブ設立に向けたプレ活動、参加者のニーズ調査を行い、平成19年4月8日に「かみのやま総合型地域スポーツクラブ」を設立しました。

本クラブは、「スポーツを実施していない市民へのスポーツ機会の提供」を主たる活動として考え、市内で活動しているスポーツ少年団、単一種目クラブとは活動が重複しないように心がけています。本クラブをスポーツ実施の入口としていただき、2～3年で、さらに専門的に活動されたい会員は、スポーツ少年団、単一種目クラブへ移籍できるようにプログラムを組んでいます。

本クラブの教室がそのままスポーツ少年団に発展した事例もあります。また、活動種目の開催日の7割を月曜日に集中して実施することにより、個人でも家族でも月曜日に拠点施設に出向いていただければスポーツを実践できるようにしています。「月曜日はスポーツクラブの日」とのぼりを掲げています。



2 目指すは「温泉旅館・ホテル」を活用したスポーツによるまちづくり

本クラブでは、クラブが地域に根付くためには、地元の資源を活用したスポーツによるまちづくりを目指すことが必要であると考え、温泉街である上山市の旅館やホテルを利用した「スポーツと温泉のコラボ事業・スポーツと温泉で身体も心もリフレッシュ」事業を始めました。この事業は、日中比較的空いている温泉旅館やホテルの大広間を利用して、ヨガ、ピラティス、エンジョイ吹矢教室を実施し、教室終了後は温泉入浴できるという内容です。また、会員だけでなく当日温泉に来ている観光客の方も参加できます。一般の体育館で行う教室とは違い、温泉旅館やホテルですので教室開催前にはまずはお茶を一服し、終了後は温泉入浴後に参加者が団欒できるのも特徴です。現在は、大変人気のプログラムとなり、参加募集当日または2日ほどで定員になります。温泉に入浴できることが参加者はもとより指導者にも喜ばれています。

しかしこの事業は、公共施設である体育館と違って民間施設を使用するため、会場使用料が若干高いという課題がありました。(使用料2時間20,000円)そのため、スポーツ振興くじ(toto)助成金を活用しました。平成20年度からの5年間の助成期間で、上山市にこの事業の取り組みが認められ、市の観光課から観光事業、温泉地の活性化という目的で支援を受けることができ、toto助成金が終了した平成25年度からも継続して実施する予定です。

また、温泉旅館やホテル側からも協力を得られています。これまで経費のかかっていた会場使用料の減免をしていただくだけでなく、旅館やホテルの従業員に教室のアシスタントとして入っていただいて、今年度から教室指導者として教室運営に関わっていただく



ことになりました。(従業員の給与の中で対応いただけるのでクラブに指導者謝金の経費がかかりません)

事業開始当初は旅館やホテル側から「部屋が傷む」といった声や、会場使用料の交渉をした際「そんな安い値段では大広間は貸せない」と言われ、断られたりもしました。しかし、現在は別の旅館からもぜひ使用してほしいと声をいただいています。また、参加者からは「参加者が使用料を負担をしても開催してほしい」という意見もあり、続けてきてよかったと感じています。

この事業はtoto助成金がなければ、とても事業継続できるものではありませんでしたが、現在では本クラブの目玉教室であり、他クラブからの視察(開催旅館に宿泊してもらいます)も多く、自慢のプログラムです。クラブスタッフも「こんな人気教室をなくしてはいけない」という思いから、スタッフ一同アイデアを出しています。

3 今後の展望

現在クラブでは、上山市全域を対象としています。市内中心部の会員が多い現状です。そこで、市中心部以外の市民のために、市内4地区に本クラブの支部と支部拠点施設を構築し、本クラブが指導者派遣、教室の開催支援を行う予定です。また、基本とする種目を除いて、支部開催の種目があまり重複しないようにしてプログラム数の拡大を図ることによって市内全地区民が多くの種目から選択できるスポーツ環境を整えていきたいと考えています。また少子化によりスポーツ少年団、小中学校の運動部活動から寄せられる要望にも応えていきたいと思っています。

(特定非営利活動法人かみのやまスポーツクラブ クラブマネジャー 齋藤 武司)

クラブプロフィール

設立年月日：平成19年4月8日 かみのやま総合型地域スポーツクラブ

平成24年11月8日 NPO法人格取得 特定非営利活動法人かみのやまスポーツクラブ(名称変更)

地 域：山形県上山市

運 営：会員数 284名(平成25年2月現在) 予算規模 約1,100万円(平成24年度)

特 徴：会員増よりもスポーツ実施率を上げることを目的にし、家族揃ってスポーツを最低でも毎週月曜日は実施しようという目標で活動しています。

連 絡 先：〒999-3241 山形県上山市けやきの森2番1号

TEL：080-1809-0652 FAX：023-673-5588

E-Mail：info@kaminoyama-club.jp

クラブHP：<http://www.kaminoyama-club.jp/>

[INDEXへ▲](#)

将来を見据えた、計画性のあるクラブ運営

〔 菊川スポーツクラブ 〕

1 市町合併を機にクラブ設立！

「菊川スポーツクラブ（以下、クラブ）」は、平成17年2月に下関市と合併した菊川町のスポーツ環境を残そうと、5月に準備委員会を立ち上げ、スポーツ少年団を母体に設立されました。スポーツによる地域・健康・人づくりを目指し、平成19年4月より菊川地区の体育施設の指定管理を行いながら、14のジュニア団体活動と20のクラブ教室、20の年間イベント事業を行っています。平成24年度に指定管理施設内のプールが改装され、2歳～5歳までの体育教室はプールと体育館を並行して行う年間プログラムとなっています。

2 クラブの会費収入で運営できるクラブを目指して

クラブでは、教室運営による会費収入で運営できるクラブを目指してスポーツ振興くじ（toto）助成金を活用しました。5年間（平成20～24年度）のtoto助成金受託期間の間、常に考えていたことは、toto助成金は新規教室立ち上げに必要なスポーツ用具の購入に充て、クラブマネジャーの賃金などの人件費は最低限に抑えた方が良いということでした。またtoto助成金は限られた期間しか受けることができないことも意識して助成金を使ってきました。

クラブとして開設した最初の教室は、設立1年目（平成19年）にシニア層のスポーツ環境が整っていないことから始めた「シニア体力アップステーション事業」でした。この事業を皮切りとしてtoto助成1年目〔総合型地域スポーツクラブ活動支援事業〕（平成20年度）には、同年に始まる下関海響マラソン完走プロジェクトとしてジョギング教室を開設し、toto助成2年目〔同活動支援事業〕（平成21年度）には、ピラティスを開設して、全3教室に増やしました。

toto助成3年目〔同自立支援事業〕（平成22年度）からは、toto助成金を受けている間にクラブの周知を図るために、比較的経費のかかるイベント事業を実施しようと考えました。全国第一線で戦っている選手に来ていただき指導交流会という事業として、子どもたちと一緒に野球、サッカー、バレーボールを行いました。同事業4年目（平成23年度）

は、会員から昼間も卓球をしたいとの声上がり、toto助成金で卓球台を3台購入し、卓球教室を開設しました。現在ではtoto助成金を通じて6台の卓球台を揃えることができ、開催日も週3回となったことから、多くの会員が満足しています。

同事業5年目（平成24年度）は、老朽化していたプールの改装が終わったため、プール教室を開催しました。それに伴う備品をtoto助成金で揃えることができ、大人の水中ウォーキングとアクアビクス、小学校低学年と高学年の水泳教室、2歳児から5歳児までの体育教室で、プールを使用しています。

以上、5年間のtoto助成期間の間に教室数は5～20に増えました。また、各教室にかかってくる指導者謝金については、各教室の会費収入に応じてお願いしており、会場も多くは指定管理施設での使用のため50%減免となります。さらには各教室での会費収入からクラブマネジャー賃金の一部を補えるほどになりました。

ジョギング教室



プール教室



3 今後の展望

平成 25 年度は、市の健康づくり事業に申し込みましたが、法人格をとっていない任意の団体であるため、受けることができませんでした。そのような事情もあり、平成 25 年度はクラブを一步前進させるために、クラブの法人化に力を入れていきます。法人形態を NPO 法人、財団法人、社団法人のいずれにするのかは現在検討中ですが、平成 25 年度中に組織づくりをして、クラブにもっと力をつけたいと考えています。まずは会員数について地域人口の 1 割である 800 人を目指し、地域の健康づくりの核となり、行政と連携して事業を行い、若い人材を雇用できるようなクラブにしたいと思います。

(菊川スポーツクラブ クラブマネジャー 井上 登代子)

クラブプロフィール

設立年月日：平成 18 年 10 月 1 日

地 域：山口県下関市菊川町下関東部地域

運 営：会員数 602 名(平成 25 年 3 月現在) 予算規模 約 2,000 万円(平成 25 年度)

特 徴：指定管理を受けながら、幼児～高齢者までの教室に力を入れている。

連 絡 先：〒750-0317 山口県下関市菊川町下岡枝 61-1

下関市菊川運動公園内

TEL：083-287-2820 FAX：083-287-3000

E-Mail：kikukawa-sc@cyber.ne.jp

[INDEXへ▲](#)

クラブが持つ集客力のあるプログラム

〔NPO法人スポネット弘前 ―チビッコバスケットボール教室―〕

1 プログラムの概要

★初心者・低学年コース

◎木曜夜コース

日 時：毎週木曜日19：00～21：00

場 所：青森県武道館

※場所が変更となる場合があります。

参加費：月2,000円

定 員：40名 小学校高学年の初心者中心

◎木曜夕方コース

日 時：毎週木曜日16：30～18：30

場 所：青森県武道館

※場所が変更となる場合があります。

参加費：月2,000円

定 員：40名 小学校低学年中心

◎土曜コース

日 時：毎月第1、3土曜日9：30～11：30

場 所：弘前市立朝陽小学校体育館

参加費：月1,000円

定 員：40名 小学校低学年中心

★経験者用スキルアップコース

◎金曜コース

日 時：毎週金曜日19：00～21：00

場 所：弘前市立東小学校体育館

参加費：月2,000円

定 員：50名 小学校高学年中心



その他、月1回の教室〔GAME（入門編）、GAME（実践編）、スキルアップ（基礎編）、スキルアップ（応用編）〕を実施。

特 徴：バスケットボールをやってみたいお子さんは誰でも参加できる楽しい教室です。初心者のお子さんが参加するコースから、スポーツ少年団でやっているが、もっとバスケットボールをやりたいというお子さん向けのコースまであり、希望に応じて参加できます。ボールを使って遊ぶ楽しさを体感できるプログラムと、バスケットボールの基礎をしっかりと学べるプログラムで構成しています。

2 レベルに応じたプログラムを用意しています

このプログラムを始めたきっかけは、クラブマネージャーである私が、バスケットボールの部活動が小学校になく、やりたくてもできない子どもたちや、勝利至上主義の風潮によりバーンアウトしていく子どもたちを見て、バスケットボールを通して身体を動かすことを純粋に楽しめる環境をつくりたいと考えたことから始まります。

このプログラムのポイントは、「プログラムの多様さ」と「『あくしゅ、あいさつ、ありがとう』の徹底」です。

まず「プログラムの多様さ」についてです。クラブでは、とにかく子どもたちを楽しんでもらうことを主眼に置いて

いるため、子どもたちのニーズやレベルに応じてコースごとにプログラムを変えています。また、夏合宿やクリスマスイベント、車椅子バスケ交流会など、楽しいイベントも開催しています。指導面では、スポーツ少年団などで指導を受けている子どもたちが参加する場合は、どのような指導を受けているかを確認します。子どもたちが指導法について迷わないようにするためです。

次に『『あくしゅ、あいさつ、ありがとう』の徹底』についてです。クラブでは、日本体育協会が展開する「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン※の趣旨に賛同し、「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」の実践に重点を置き指導しています。この取り組みが保護者から好評で、クラブが保護者からの信頼を得る一つの要因となっています。クラブでは、保護者との関わりも重視しており、日頃から保護者の話をよく聞くようにしています。

他方、教室を運営するスタッフには、スポネット弘前の理念とチビッコバスケットボール教室の方針を理解した上で活動してもらっています。クラブでは、理念や方針を共有できるスタッフを増やしていくことが重要だと考えています。

参加者の増加に伴い、多様なニーズが出てきたので、今後は中学生を対象とした基本コースやスキルアップコースなどを展開していきたいと考えています。細かい部分まで指導していくためには、現在5名の指導体制で行っていますが、新たな指導者を発掘することも必要です。また、私自身はスポーツ少年団の指導をしながらクラブの指導もしていますが、スポーツ少年団の指導者の確保・育成は、地域の課題になっている部分です。これに対しても、クラブとしてサポートしていける体制をつくっていききたいと考えています。

(NPO 法人スポネット弘前 クラブマネジャー 鹿内 葵)

クラブプロフィール

設立年月日：平成19年5月25日（総合型クラブとして活動を開始した年月日）

地域：青森県弘前市（人口18万人の観光都市）

運営：会員数 650名（平成25年3月31日現在） 予算規模 約1,200万円（平成24年度）

特徴：現在15部門のサークルと教室を実施しているが、すべて競技志向ではなく、誰でも参加できる形式で行っている。また多くのイベントを行政や他の団体と連携しながら実施している。

連絡先：〒036-8035 弘前市百石町2-1 弘前商事ビル2F

TEL：0172-32-6523 FAX：0172-88-6239

E-mail：info@sponet-h.com

クラブHP：<http://sponet-h.com>

Facebook：<http://www.facebook.com/#!/sponet>

ブログ：<http://sponet-h.com/blog>

※「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンについてはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/portals/0/data0/fair>

[INDEXへ▲](#)

クラブが持つ集客力のあるプログラム

【^ら楽々^{やは}クラブ矢巾ーホッケー教室ー】

1 プログラムの概要

実施頻度：月2回、年間24回

場 所：岩手県立不來方高等学校ホッケー場、矢巾町民総合体育館

参加者数：23名(小学生22名、中学生1名)

参 加 料：無料(年会費・スポーツ安全保険料のみ)

募集定員：40名

特 徴：地元の不來方高等学校ホッケー部顧問である岩館直也先生[元男子ホッケー競技日本代表選手(シドニー・アテネオリンピック大会予選出場)]と部員の方が指導者となり開催している。

2 豊富な経験と実績を持つ指導者が人気です

このプログラムは、「楽々クラブ矢巾(以下、クラブ)」が設立された平成21年3月、矢巾町で初めて総合型地域スポーツクラブが設立されたという新聞記事を見た岩館先生が、小中学生を対象にホッケーを普及させたいという熱い思いを胸に当クラブへ相談に来られたことから始まりました。クラブとしても小中学生の会員獲得につながることから、平成21年度に体験教室を2回開催しました。元日本代表の先生と全国大会にも出場する現役高校生の指導を受けられることもあり、参加した子どもと見学していた保護者から継続を希望する声が数多く寄せられました。

そこで平成22年度は実施回数を増やして開催したところ、出席率100%と強い手応えを感じ、現在では年間を通したプログラムとして開催しています。

このプログラムのポイントは、高校運動部活動という地域のスポーツ資源を活用できているという点にあります。トップレベルの指導を受けることにより子どもたちにとっては質の高い教室となり、また指導する高校生にとっても良い経験となります。

この教室に参加した中学生の1人は、競技を続けたいからと不來方高等学校へ進学し、今では小学生の指導もしています。クラブ会員からホッケー部に入部した第1号の会員であり、クラブとしてもとても嬉しい出来事でした。

グラウンドでは、ホッケーを通じて様々なコミュニケーションがなされ、先生の指導はもちろんのこと、年代の近い高校生から教わることも、子どもたちにとって楽しい体験になっているようです。

今年度は用具をさらに揃えて、念願の町で開催されるスポーツ少年団のホッケー大会に出場したいと考えています。また、町内の中学校にホッケー部がないことから、今後の競技活動をどのように継続させていくか、先生の協力を得ながら一緒に取り組んでいこうと考えています。

(楽々クラブ矢巾 クラブマネジャー 射守矢 加代子)



設立年月日：平成21年3月21日

地 域：岩手県紫波郡矢巾町

岩手県のほぼ中心部に位置し、総面積67.28平方キロメートルの、岩手県で2番目に小さな町。盛岡市南部に隣接するベッドタウンとして開発が進み、人口増加が進んでいる。

人 口：26,720人（平成25年5月現在）

運 営：会員数 241名（平成25年4月23日現在） 予算規模 約560万円（平成25年度）

特 徴：町社会教育課、スポーツ推進委員、町体育協会、各サークル代表で組織され、町・体育協会・地域の学校と連携して活動している。

連 絡 先：〒028-3615 岩手県紫波郡矢巾町南矢幅13-118 矢巾町民総合体育館内2階

TEL：019-611-2873 FAX：019-697-4907

E-mail：lala-club@cube.ocn.ne.jp

[INDEXへ▲](#)

クラブが持つ集客力のあるプログラム

[K-Friends – だろたんぼカーニバル in かつうら –]

1 プログラムの概要

実施頻度：毎年9月（過去4年間実施）

参加者数：約200名

参加費：ソフトバレーボール大会 1人1,000円 その他 1人100円

場 所：勝浦町道の駅「ひなの里かつうら」裏のたんぼ（勝浦町大字生名）

特 徴：スポーツをする人、見る人、応援する人はもちろん、カメラマンやスタッフも100%の笑顔になる、だろたんぼの中での魅力あるソフトバレーボール大会、ちびっこ運動会、フラッグ大会を開催。

2 だろんこになる人も見る人も笑顔になります

K-Friends（以下、クラブ）では、クラブの認知度向上と地域活性化を図るために勝浦町の山、川、たんぼ、澄みきった空気、穏やかな気候、あたたかい人柄の町民性を活かしたイベントを開催できないものか、クラブ内で検討していました。見る人や応援する人はもちろん、スタッフも楽しめるもので、からだ元気になり、こころも健康になり、みんなが笑顔になる「クラブのメインイベント」を企画するべく、知恵を絞った結果、地域資源の一つである「たんぼ」を活かして参加者がだろんこになるスポーツ大会の開催を発案し、4年前に始めたのが「だろたんぼカーニバル in かつうら」です。

イベント開催にあたり重要であるのが、会場確保と開催時期です。イベント開催には駐車場、トイレ施設等が必要で、これらの条件が揃った「たんぼ」は、クラブ会員から「クラブと町の活性化のためであれば」と借用を快諾いただき確保できました。また、開催時期について、夏は台風襲来や稲刈りの時期であり、一方、冬はたんぼの休閑期ですが、だろんこになった参加者が寒く感じる事が想定されることから、毎年9月に開催しています。

このプログラムのポイントは、「泥まみれになる」という日常経験できないことが体験できる点にあります。そこで、あえてだろんこになりやすいような種目（団体種目としてソフトバレーボール、個人種目としてフラッグ、その他リレー等）としました。また、ただだろんこになるだけでなく、衣装コンテストも行うなど参加者が色々な形で楽しめるように工夫しました。子どもから大人まで一緒に楽しむことができ、全身がだろんこになる参加者の姿が絶好のシャッターチャンスにもなるので、カメラマンも応援する人もどんどん増えました。（全体参加者数：第1回目約200人⇒第4回約300人）

このプログラムの課題は、シャワー施設のレンタル代金（町からの補助金にて支出）が高額であり、参加人数に対応した台数をレンタルできなかったことです。その点については、シャワー時間の短縮を考えて、近隣の温泉施設（特別養護老人ホーム）に入浴の割引利用に協力していただき、参加者がゆっくり入浴していただくことで改善しました。

また、このプログラムの難しい点は、準備から後片付けまで体力的にハードである点です。なめらかな水田に仕上げるための腰痛覚悟の作業、灼熱の太陽の下でのイベント進行、だろだろになるシャワー室やトイレのブラシかけなど、



スタッフの苦労話は語り尽くせないほどあります。それでも、「来年もやろうね」という声が上がります。それはクラブにとって、クラブスタッフやボランティアスタッフの団結力が高まる貴重な機会となるからです。

参加していただければわかる最高に楽しいイベントです。また、イベントのマンネリ化を防ぐため今年の秋からは、どろたんぼカーニバルの開催で培った運営ノウハウを活用して新しいイベントも準備中です。ぜひ多くの方々に楽しんでいただきたいと思います。

(K-Friends クラブマネージャー 溝上 由美)



クラブプロフィール

設立年月日：平成21年3月15日

地域：徳島県勝浦郡勝浦町（勝浦川と山に囲まれた自然豊かな地域）

人口：5,753人（平成25年4月末現在）

運営：会員数 442人（平成24年3月現在） 予算規模 1,900万円（平成25年度）

特徴：スポーツ教室（8教室）、ダンス教室（4教室）、スポーツサークル（4サークル）、文化教室（3教室）、ファミリースポーツフェスティバル、ウォーキング、カローリング大会などを実施。

連絡先：〒771-4307 徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1-1

TEL・FAX：0885-42-3671

E-Mail：kfriends@27.fan-site.net

クラブHP：<http://kfriends.fan-site.net/index.html>

[INDEXへ▲](#)

女性の運営委員やリーダーが活躍しているクラブ

鶴岡市民健康スポーツクラブ ～笑顔の健康ウエーブ～



キーポイント

- クラブ事務局スタッフが全員女性（7名）、クラブ内指導者が38名女性（全88名）
- 女性スタッフのソフトで繊細な心配りとスマイルが、クラブ内の絆を支える

1 クラブの概要

「鶴岡市民健康スポーツクラブ（以下、クラブ）」（山形県鶴岡市）は平成7年に鶴岡市が文部省（当時）より総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業を3年間受けたことを契機に、平成8年にクラブが誕生しました。その後、平成10年に行政主導から住民主導のクラブ運営をめざし、平成12年にはクラブ事務局を市スポーツ課事務室内に設置し、自主運営の体制を整えました。

クラブの理念は、幼児から高齢者まですべての市民が健康で明るく豊かな人生を築くために、“いつでも”“いつまでも”楽しく・安心してスポーツ活動ができる環境支援と活力ある心豊かな街づくりの推進に寄与することです。

活動プログラムは、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい26プログラムと短期教室6講座、それに季節の交流イベントと多様です。また、ジュニア選手育成コースにおいては子どもたちの将来の可能性を大切にしながら、トップアスリート養成にも力を入れています。

クラブスタッフは、事務局員7名の全てが女性（クラブマネジャー・事務局スタッフ・アシスタント）で、全指導者88名中38名を女性が占めています。

2 女性が活躍している要因

平成10年にクラブが住民主導での運営を目指す際、事務局スタッフが不足していたためボランティアスタッフを募集しました。そこでターゲットとしたのが女性でした。クラブでは、午前中や午後（13時～15時）の時間帯で教室を運営していたことから、その時間帯に、育児や家事などの合間をぬって活動いただける女性の力は欠かせませんでした。女性スタッフには、受付業務、準備後片付け、経理や指導者への連絡など事務手続きをお願いしています。

活動プログラム設定に関しては市民のニーズ調査を参考にし、運動機会の少ない人、スポーツ初心者、運動が必要な人（生活習慣病予防等）、スポーツ少年団や部活動に加入できない子どもたちに対応して、スポーツの楽しさ・仲間づくり・健康づくりなど多様な面を念頭において検討を重ねています。

活動施設は、市行政から市体育施設使用について全面的な支援を受けています。指導者は、各競技団体・スポーツ推進委員（旧体育指導委員）他から「総合型地域スポーツクラブ」の趣旨などについて理解を得て、プログラムに対応した人員を確保しています。

クラブマネジャーの鎌田さん（女性）は設立当初を振り返り、「初心者や運動の苦手な市民を対象にして毎日が苦労の連続でしたが、会員の爽やかな汗・元気な笑顔を見ると、それがクラブづくりのエネルギーになりました」と語っています。

また、女性スタッフは、常に主役は会員であることを忘れずに笑顔で接し、会員の声を引き出し、良い話し相手になることを心がけて、連携してクラブ運営に当たっています。このような女性スタッフのソフトで繊細な心配りとスマイルが、クラブ内交流の絆をしっかりと支えています。



3 今後の展望

クラブマネジャーの鎌田さんは、「子育て支援や健康寿命の伸展を目指した介護予防のプログラムなどを加えて、他クラブや地域・行政と楽しくコラボしながら多様なクラブ活動を展開することで、子どもから高齢者までの“こころ”と“からだ”の健康づくりに貢献していきたい」と語っています。

(山形県クラブアドバイザー 海老名清二)



クラブプロフィール

設立年月日：平成8年4月17日

地 域：山形県鶴岡市全地域

運 営：会員数 714名(平成24年度) 予算規模 約1,700万円(平成25年度)

特 徴：行政主導で設立し、その後、行政と緊密な連携を保ちながら全市民を対象に自主運営を行っている

連 絡 先：鶴岡市小真木原2-1 小真木原総合体育館内

TEL：0235-25-8131 FAX：0235-25-8134

E-mail：info@tsksc.com

クラブHP：<http://www.tsksc.com>

[INDEXへ▲](#)

女性の運営委員やリーダーが活躍しているクラブ

サン・スマイルいわで ～ 女性リーダーが中心となり女性スタッフが活躍するクラブ～



キーポイント

- 女性スタッフ12名(全クラブスタッフ数14名)
- 女性リーダーを起用し、女性スタッフが活動しやすい体制の整備
- 女性特有のきめ細やかな心配りや、主婦目線のアイデアを生かす

1 クラブの概要

「サン・スマイルいわで(以下、クラブ)」(和歌山県岩出市)では、女性事業リーダーが運営に関わることで、事務局体制が整ってクラブが動き始めました。現在の新体制では、会長・副会長を中心に女性事業リーダー・女性スタッフ12名が加わり計14名で運営しています。

クラブがある岩出市は平成18年に市制となりましたが、地域の連帯感の希薄化、軽犯罪の多発などの問題がありました。その状況を少しでも改善できるようにと平成23年9月に「いつでも、どこでも、いつまでもスポーツや文化活動を通じ子どもたちの健全育成と住民の健康、助け合い支え合う地域づくり」をめざしクラブが設立されました。

2 女性スタッフを取り入れるキッカケ

クラブ設立当初、女性と子どもをターゲットにした教室会員を新聞折込みで募ったところ、予想以上の応募がありました。教室の会場及び指導者の確保などの業務が発生したため、急いでチラシを作り協力スタッフの募集をしました。その結果、男女1名ずつの応募者とクラブの母体であったレスリング教室の保護者にも協力をお願いし、クラブ活動はスタートしました。

その際、女性特有のきめ細やかな心配り、合理的な発想と無駄のない動きをみて、この活動には女性スタッフが必須だとクラブでは痛感したそうです。



3 女性リーダーの発掘、女性スタッフの増加のために

教室が始まると様々な運営上の諸問題が生じたため、クラブでは問題に対処できるリーダーが必要となりました。そこで、クラブ会長の交友関係の中から教室運営経験のある女性にお願いしました。リーダーとなった女性は、まず現状把握のため事前に運営委員会などの諸活動に参加しました。

その後、クラブ内にいる多くの女性スタッフが活動しやすくなるようクラブのルール作りを行っていきました。例えば会議運営においては、「報告・連絡・相談の徹底」や家事などで忙しい女性に考慮し「会議は短時間を厳守する」

といったルールを設定しました。

女性リーダーは「円滑な運営をするには、スタッフ全員がクラブの理念（クラブが何を目指しているのか）を共有し、その中で自分の役割は何かを明確にすることが大事」と話し、組織図と体制図を示してスタッフ全員の役割の確認、経理上の透明性のあり方などの意思統一を図りました。当初は「これまでのやり方とは違う」との反発も出ましたが、何とか理解を得て、新しい体制ができました。

4 女性ならではの視点を活かす事業

女性事業リーダーはクラブと地域の相互メリットを追求しながら、地域の活性化に寄与できることを常に考えています。その例の一つが、民間スポーツ店の空きスペースを活用したスポーツ教室事業です。

今年（平成25年）の春から、地域の大型商業施設内のスポーツ店の協力で、空きスペースを利用してキッズダンス・ヨガ・フラダンス・太極拳・エアロビクスなどの教室を開いています。その際、空きスペースを活用させてもらう代わりに、教室参加者に買い物割引チケットの配布や店の広報協力を実施しています。買い物割引チケットの配布などは主婦に好評で、スポーツ店側にも大きな効果があるそうです。これも女性目線を取り入れた事業展開ができている成果でしょう。

クラブがこういった事業を実施できている要因は、設立前後のより早い段階で事業経験のある女性リーダーを起用し、女性を中心としたクラブの体制を整えたことではないでしょうか。

今の課題は、いかに男性会員を増やしていくか。クラブの奔走はつづきます。

（和歌山県クラブアドバイザー 中村淳子）

クラブプロフィール

設立年月日：平成23年9月30日

地 域：和歌山県岩出市

運 営：会員数 460名（平成25年6月現在） 予算規模 約2,000万円（平成25年度）

特 徴：16種目32教室を開催している。色々な世代が参加しやすいスタジオ系中心のプログラムが多い。スタッフ全員が活躍できる運営を心がけている

連 絡 先：〒649-6248 和歌山県岩出市中黒32-1

TEL：0736-60-4312

E-mail：sun_smile_iwade@zeus.eonet.ne.jp

クラブHP：<http://sunsmileiwade.web.fc2.com/index.html>

[INDEXへ▲](#)

女性の運営委員やリーダーが活躍しているクラブ

一ノ谷スポーツクラブ ～ ローカルコミュニティで生む女性スタッフの活躍～



キーポイント

- クラブの積極的な声掛けにより、地域に眠っていた女性を発掘
- 他団体の事務局も兼ねる女性スタッフが橋渡し役となり事業展開
- 女性ならではの心配りや気遣いが各事業で生かされる

1 クラブの概要

「一ノ谷スポーツクラブ(以下、クラブ)」(香川県観音寺市)は、平成9年に地区体育協会関係者などを中心に設立された、香川県で一番老舗の総合型クラブです。地域の仲間づくり・健康づくりを目的として、子ども、働き盛りの大人、高齢者という3世代間の交流を積極的に図っています。

クラブは地区の自治会も設立母体となっているため、自治会加入世帯は自動的にクラブの会員となります。事務局は自治会活動の核である地区コミュニティセンター内にあり、そこでは地区社会福祉協議会や老人会、自治会といった多数の地域団体が様々な活動をしています。

2 地域には「眠り姫」が多数存在する！

地域には、子育て経験の豊富な女性、チラシづくりの上手な女性、しゃべり上手で情報を引き出す能力に長けている女性など、多彩な女性がいたところに存在します。一ノ谷地区にも、バイタリティ溢れる女性が眠っていました。それが、現在クラブの事務局員をされているIさんです。

Iさんは元々観音寺市外から嫁いできた方で、地域行事の参加には奥手でした。しかしクラブ関係者から「人が足りないから、地区の親睦バドミントン大会に出ないか？」と声をかけられ、その大会に参加したことをキッカケに行事にも顔を出すようになり、やがてクラブの事務局員となりました。

Iさんはクラブ専門の事務局員ではなく、地区コミュニティセンターで活動する地区社会福祉協議会や老人会、自治会などの多数の地域団体の事務局も担っています。Iさんがクラブと地域の他団体との橋渡し役となることで、新しいアイデアも生まれています。

平成24年度は、県の委託事業を受託し、他の地域団体と連携しながら「谷っ子と協働・地域防災プロジェクト」に取り組みました。この事業では「地区体育祭」で防災訓練リレーを、一ノ谷小学校の生徒を対象に「防災キャンプ」を実施し、防災キャンプでは1泊2日で炊き出しや防災頭巾づくり体験などを行いました。

そのほかに、現在一ノ谷地区のスポーツ推進委員全員が、クラブの運営委員や会計担当など運営における重要な役職についています。スポーツ推進委員においても、元気な女性が活躍しています。



3 女性スタッフが多いメリット ～細やかな心配り

女性スタッフが活躍するメリットは、女性ならではの細やかな心配りが事業に反映できることです。クラブでは最近、「グラウンドゴルフ部」というサークルの活動が人気で、メンバーが増えています。

このサークルは近隣クラブとの交流大会も盛んで、毎回約200名の参加があります。冷える日の大会には女性メンバーが中心となって甘酒や芋煮、うどんなどを提供します。また、グラウンドゴルフの活動だけではなく、地区の文化祭で日本舞踊を演じたり親睦旅行を実施したりと、スポーツ以外の活動も行われています。これも、手間を面倒と厭わない、女性ならではの心配りや気遣いが最大限に生かされる場面といえるでしょう。

地域を変える力を持っているのは「よそもの・ばかもの・わかもの」だと聞いたことがありますが、クラブではこの中に「女性」が加わります。Iさんは「一ノ谷スポーツクラブでは、女性ならではの“心配り・あつかましさ・しなやかな感性”があらゆる場面で輝いています。クラブの一員である自分も輝いてこそ、クラブも地域も輝くと信じています」と笑顔で語ってくれました。



クラブプロフィール

設立年月日：平成9年4月
地 域：香川県観音寺市（一ノ谷地区）
運 営：会員数947名（平成24年7月現在） 予算規模 約170万円
特 徴：地区コミュニティセンター内に事務局があるため、地域の他団体との連携が積極的に図れる。
自治会費の中にクラブ会費が含まれている
連 絡 先：〒768-0023 香川県観音寺市古川町85-1
TEL・FAX：0875-25-0009
E-mail：ichinotani-comyu@mc2.mcbnet.ne.jp

[INDEXへ▲](#)

スポーツ少年団と連携しているクラブ



はしかみ総合スポーツクラブ

～クラブがスポーツ少年団大会を開催、クラブ教室からスポーツ少年団を設立～



キーポイント

- スポーツ少年団（以下、少年団）のスポーツ安全保険に係る諸業務をクラブが代行〔250名分〕
- 地域の少年団が参加できる大会を主催
- クラブのサッカー教室を少年団登録

1 少年団との連携事業概要（少年団大会の開催）

- (1) 名 称 …… はしかみ SSC 杯ミニバスケットボール大会
 会 場 …… 地域の小学校体育館（2校）
 参加チーム… 8単位団（第1回）→15単位団（第3回）
 （近隣市町村や隣接する岩手県から参加）
 参加料 …… 4,000円／1単位団（第1回大会）→5,000円／1単位団（第3回大会）
 大会期間… 2日間（土曜日・日曜日）
 運 営 …… 各チームからの帯同審判を派遣
- (2) 名 称 …… はしかみ SSC 杯学童野球大会
 会 場 …… 地域の小中学校のグラウンド
 参加チーム… 8単位団（近隣市町村や隣接する岩手県から参加）
 参加料 …… 4,000円／1単位団
 大会期間… 2日間（土曜日・日曜日）
 運 営 …… 各チームからの帯同審判を派遣

2 少年団と連携したキッカケ

「はしかみ総合スポーツクラブ（以下、クラブ）」（青森県三戸郡階上町）は、クラブ創設準備期に学校関係者や地域住民に対して説明会を複数回実施し、要望などを聞いた結果、クラブ設立時には、地域の小学校運動部活動・少年団活動におけるスポーツ安全保険に係る諸業務をクラブが代行することとなりました。その後、さらにクラブとして子ども達に何ができるのかを検討する中で、以下の理由からクラブ主催で少年団大会を開催することとしました。

○大会を実施した理由

- ・クラブの地域貢献活動（保険に係る諸業務の代行だけでは地域貢献度が薄い）
- ・少子化による試合経験不足の解消
 （少子化による団員数減少に伴う試合数の減少や、大会に勝たないと多くの試合を経験できないことなど、子ども達が経験できる試合数が少ない状況にあった）
- ・地域住民への広報活動（チラシの配布などにより認知度向上につながる）

○大会運営上のポイント

- ・町内の少年団には全単位団（3校）に参加いただく。
- ・近隣市町村の少年団にはクラブマネージャーが直接交渉し参加を呼び掛けた。
- ・会場設営や撤収も全単位団で行う。

- ・ 運営費については全て参加料の範囲内で対応した。

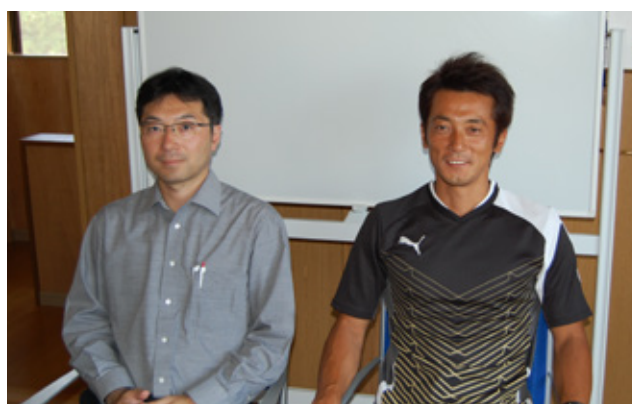
○大会実施の効果

- ・ 行政主催の大会では参加が難しいと思われる他県の少年団に参加いただいた。
- ・ 勝敗にこだわらず試合時間の短縮などを行うことにより、より多くの子ども達に試合を経験させることができた。
- ・ 大会名にクラブ名を使用したことで、町内に限らず近隣市町村までクラブの認知度向上を図ることができた。

3 少年団設立のキッカケ

クラブでは、所在地域にサッカー教室や少年団が無かったことから、平成24年1月から3カ月の期間限定でサッカー教室を実施しました。クラブが想定したよりも多くの参加があり、教室継続を希望する声も多かったため、4月から正規教室となりました。現在はクラブの専属コーチとして、公益財団法人日本サッカー協会(JFA)公認指導者である玉懸敦氏が指導を行っています。

そして、少年団登録すると各種大会にも参加できることから、平成24年10月にサッカーチームを設立、平成25年4月にチームを少年団登録しました。そのことがキッカケで県内のサッカー情報誌がクラブのスポンサーとなり、定期的にクラブの情報を掲載していただいています。



4 クラブとしての今後の展望

期間限定でスタートしたサッカー教室は、現在クラブの主力教室となっています。参加者も多いことから今後は少年団の育成母集団を組織化し、クラブとの連携協力体制を築いていきたいと考えています。

また、ミニバスケットボール大会や学童野球大会に続き、クラブ主催のサッカー大会を開催し、近隣市町村のクラブや少年団との交流が図れるよう検討しています。大会の認知度が上がるにつれて問い合わせや参加希望の声も増えていますが、開催場所が限られていることから大会規模を大きくすることは難しい状況です。クラブでは、むやみに規模を大きくするよりも、よりきめ細かな部分に配慮した大会として長く継続することを考えています。

(公益財団法人青森県体育協会クラブアドバイザー 佐藤 龍哉)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年3月27日

地 域：青森県三戸郡階上町（農林水産業が盛ん、八戸市に隣接し市内へ通勤・通学する人も多い）

運 営：会員数 100名（平成25年4月現在）

予算規模 約960万円（平成25年度）

特 徴：器械体操やツリーイング（木登り）など他クラブにはない種目を実施している

連 絡 先：〒039-1201 青森県三戸郡階上町道仏字耳ヶ吠 32-21

TEL：0178-38-9352 FAX：0178-38-9353

E-mail：nakajo@kkf.biglobe.ne.jp

スポーツ少年団と連携しているクラブ

山辺の里スポーツクラブ ～ 仲間と一緒にいい汗いい笑顔 ～



キーポイント

- 既存のスポーツ少年団（以下、少年団）がクラブに加入
- 事務局機能が整備されたクラブが、少年団の各種手続きを行う
- クラブ加入後、少年団間でのスポーツ交流が促進される

1 クラブの概要

「山辺の里スポーツクラブ（以下、クラブ）」（山形県山辺町）は、平成12年頃に起きた市町村合併問題を契機に、合併後の町のスポーツ振興などについて有志が話し合う「総合型地域スポーツクラブを考える会」、そして「山辺の里スポーツクラブ設立準備委員会」を経て、平成17年3月に設立されました。

クラブの理念として、(1)「生涯にわたって誰もが気軽にスポーツに親しむことができるようにする」(2)「会員の健全な心身を育成する」(3)「元気で健康な連帯感あふれる『山辺のまちづくり』に貢献する」という3つの柱を立てています。

活動はスクール部門（少年団11単位団の活動）、イベント部門（スポーツ教室や研修会など14種目開催）があり、町体育施設、学校体育施設、町公民館施設などの会場で展開されています。

2 地域で活発な既存の少年団がクラブに加入

山辺町では、以前より町体育協会や町レクリエーション協会、少年団が活動しています。「教育」や「地域コミュニティ」に関心が強い土地柄から、特に少年団活動が盛んであり、多くの町民がその活動に協力的です。しかし、各団体の連携は十分とはいえない状況でした。

クラブでは、創設準備段階から町内の全単位団がクラブに加入していただくことを目指し、何度も少年団指導者や保護者に対して理解や協力を求めました。しかし、少年団には登録料制度が存在する一方で、クラブへの加入には別途クラブ会費を支払う必要があり、ご加入いただくには大変苦労しました。

それでも少年団がクラブに加入してもらったポイントとして、クラブの運営委員である長岡さんは「直接何度も会って、話し合いを持ったことが良かった」と語っています。また、少年団側からすれば、登録手続きやスポーツ安全保険などの事務が大変であることや、少子化が進む中でスポーツの苦手な子どもたちの取り込みに苦労していたことも、クラブに加入していただくキッカケとなりました。

3 少年団がクラブに加入した後の効果

クラブに少年団が加入した後、事務局機能が整備されているクラブ側が団員募集、登録手続き、スポーツ安全保険手続きを担当することになりました。また、クラブが、少年団指導者研修会や体力テストの開催などクラブ加入少年団が一堂に会する機会を作りました。

その結果、少年団員や指導者は他の少年団活動やクラブ教室への参加ができるようになり、他の小学校区の団員やその保護者と知り合うキッカケや、多様なスポーツ活動を経験できるキッカケとなりました。

4 今後の展望

クラブの今後の展望について、クラブ事務局長である岡崎さんは「スクール部門ではこれまでのスポーツ少年団活動を継続しながら、多様なスポーツ体験ができるイベントを開催して、子ども達の会員を拡大したい。またイベント

部門では、教室間のクラブ会員や他クラブとの交流の機会を充実させ、更にクラブを発展させていきたい」と語っていました。

(公益財団法人山形県体育協会クラブアドバイザー 海老名清二)



クラブプロフィール

設立年月日：平成17年3月26日

地域：山形県山辺町全地域

運営：会員数 400名(平成24年度実績)

予算規模 約500万円(平成25年度)

特徴：住民が主体となって設立し、少年団事業を中心に広く町民を対象とした教室型イベントプログラムを行っているクラブである。また、クラブは町からスポーツ振興基金やスポーツ教室委託事業を受け、行政とは独立しながらも強い連携により運営されている。

連絡先：山形県山辺町緑ヶ丘1 山辺町民総合体育館内

TEL：023-664-7263 FAX：023-664-7256

E-mail：yamanobenosato@nifty.com

クラブHP：<http://homepage2.nifty.com/yamanobenosato/>

[INDEXへ▲](#)

スポーツ少年団と連携しているクラブ

NPO 法人へきなん南部スポーツクラブ ～ 多様なスポーツニーズに応えるためスポーツ少年団に登録 ～



キーポイント

- クラブの教室をスポーツ少年団（以下、少年団）登録
- 子どもたちの様々なスポーツニーズに応える環境の整備

1 総合型クラブは後発部隊!! 地域の不足を補う団体になろう!!

「NPO 法人へきなん南部スポーツクラブ（以下、クラブ）」（愛知県碧南市）は、平成 22 年に設立、平成 24 年に NPO 法人化したクラブで、「夢・健康・仲間づくり・生きがいづくり」をモットーに、碧南市臨海公園を拠点として 18 教室で活動しています。

碧南市では市体育協会及び市レクリエーション協会の活動が充実しているため、クラブ創設段階では地域から「総合型クラブは碧南市には必要ない」という意見も出ました。しかし、当時の地域住民の運動実施率が低かったことから、運動していない人に焦点を当てた活動にすることや市内で不足しているニーズを補える団体になることを目指し、活動の展開を始めました。

2 バスケットボール教室を少年団へ!!

平成 22 年当時、市内にはバスケットボールの教室や少年団がありませんでしたが、地域にはバスケットボールを教えたいと思う熱心な指導者がいました。そこで、クラブ設立時にバスケットボール教室を開催しました。

教室では、多くの子どもがバスケットボールを楽しめるように運営されていましたが、不特定多数の子どもが対象でメンバーが固定されていないことから、よりバスケットボールの上達を目指す子どものニーズに応えきれない部分が出てきました。そこで、ある程度固定のメンバーで計画的な指導や段階的な技術の習得が可能となるような組織が必要となり、少年団登録することを決めました。

当初、指導者は少年団登録料のことや諸々の少年団会議に出席が必要であることを懸念していましたが、少年団指導者を対象とした研修会に参加することが指導者としての資質の向上につながることから、少年団登録することに納得していただきました。一教室が少年団になることは容易ではなく、2 年程度の時間がかかるであろうと思っていましたが、指導者を含めクラブが総力を挙げて尽力した結果、1 年間でやり遂げることができたそうです。

3 少年団（名称：碧南アンビシャス）のメリット

指導者はバスケットボール教室と少年団の両方の指導もしているので、双方の参加者を集める相乗効果が生まれています。クラブ会員の子どもはバスケットボール教室から始め、より専門的な技術を学びたいという子どもは少年団に登録します。先に少年団に登録した子どもで、もっと長い時間バスケットボールがやりたいと言って、クラブの会員になったケースもありました。

これら「教室体から少年団へ」育てた一連の流れにより、多様なスポーツニーズに応えられるスポーツ環境の整備ができたと考えています。クラブと少年団を結ぶことで、子どもたちは自分自身が目指すビジョンが明確になったことでしょう。また、指導者は初心者から上級レベルまで幅広い指導が求められ、自らのスキルアップになったそうです。

4 クラブと少年団との関わり

指導者はバスケットボール教室と少年団の両方の指導もしているので、双方の参加者を集める相乗効果が生まれ

ています。クラブ会員の子どもはバスケットボール教室から始め、より専門的な技術を学びたいという子どもは少年団に登録します。先に少年団に登録した子どもで、もっと長い時間バスケットボールがやりたいと言って、クラブの会員になったケースもありました。

これら「教室体から少年団へ」育てた一連の流れにより、多様なスポーツニーズに応えられるスポーツ環境の整備ができたと考えています。クラブと少年団を結ぶことで、子どもたちは自分自身が目指すビジョンが明確になったことでしょう。また、指導者は初心者から上級レベルまで幅広い指導が求められ、自らのスキルアップになったそうです。



5 今後の展望

現在は、バレーボール教室を少年団登録する計画を立てています。碧南市にはバレーボールの少年団がなく、熱心な指導者がいるといった点でバスケットボール少年団との事例と類似しています。今後も、総合型クラブから少年団に登録する団体が増える、また少年団が総合型クラブと連携・共同することで、地域スポーツ環境の整備及び指導者の育成に力を入れていこうと考えています。

(公益財団法人愛知県体育協会クラブアドバイザー 藤田 佳保里)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年3月21日設立

地 域：愛知県碧南市浜町

運 営：会員数 885名(平成25年6月現在)

予算規模 約1000万円(平成25年度)

特 徴：既存の団体と共同・共存ができているクラブである。

連 絡 先：愛知県碧南市浜町2-4

TEL：0566-42-4233 FAX：0566-42-4234

E-mail：hn-sougougata@wit.ocn.ne.jp

クラブHP：<http://www.hn-sougou.com>

[INDEXへ▲](#)

既存施設を上手に活用しているクラブ

NPO 法人おにすぽ ～ 手づくりが基本の施設活用術 ～



キーポイント

- キーパーソンが中心となり、利用状況の悪いグラウンドを整備、利用状況改善
- 空き店舗を改修してクラブハウス化
- 地域での活動を認められ市内施設の指定管理者となる

1 クラブの概要

「NPO 法人おにすぽ（以下、クラブ）」（北海道登別市）は、平成22年2月27日「のぼりべつスポーツコミュニティクラブ（おにすぽ）」として、健康で笑顔溢れる社会づくりを理念として誕生しました。地域のサッカークラブチーム、卓球協会、登別山岳会がクラブ創りを推進し、たくさんの関係者の想いを詰め込んでのスタートとなりました。その後、クラブ運営に専念するため学校職員を退職した磯田クラブマネジャー（現理事長）がキーパーソンとなって地域施設の再利用を図り、これまで「グラウンドの確保」「クラブハウスの開設」「市民活動拠点施設の指定管理者となる」など、地域に根付くクラブ周知と種目の充実を図っています。

2 利用状況の悪いグラウンドを自ら整備

クラブでは屋外施設として、地域のグラウンドを練習や大会開催で使用しています。しかし、当初はほとんど活用されておらず、利用する側の視点で管理されているとはいえない状況でした。そこで磯田理事長が学校職員としての経験を活かして、「手間をかけずにグラウンド整備ができるはず」とクラブ関係者に提案し、次に行政担当者に「あのグラウンド、僕たちがきれいにしてもいいですか？」と交渉した上で、整備を始めました。

磯田理事長の知人の建設業者に協力して頂き、会員、関係者と共に自賄いで整備を進め、市の予算を下回る経費で管理業務を行うことが実現できました。その実績が認められ、行政から整備委託契約を受けることができました。今では利用申請を出してまで使用したいという団体が増えています。

3 空き店舗をクラブハウス化

クラブでは、シャッター街と化していた駅前商店街の空き店舗をクラブハウス化しました。登別市では、商店街活化に向けて空き店舗助成制度を実施していたので、クラブではその助成制度に着目し、1階が店舗・2階が居住空間・駐車場が15台分ある、元は選挙事務所として活用されていた店舗を発見し、賃貸契約を結ぶことを計画しました。ところがその過程で、その店舗が助成制度対象外地域であることがわかりました。

しかし、クラブハウスを持つことの意義や活動の自由度が増すことを見据えた結果、新たなプログラム開発やクラブハウスの賃貸料を稼ぎ出す仕組みを生み出すことで経費面は対応しようと考え、契約・開業に向けての準備が始まりました。クラブハウスのパーティーションは選挙事務所として使用されていたものをリサイクルし、内装はすべてスタッフの手づくりとしたため安価となりました。

■主な経費

① 間仕切りなどの費用	約 10 万円	
② スタジオ用の鏡貼り付け（壁全面）	約 25 万円	
③ 音響設備	約 20 万円	
④ 備品（デスク・ロッカーなど）	約 15 万円	
⑤ 契約料	20 万円	合計 90 万円

手作りのため予定よりは遅れましたが、ダンススタジオのあるクラブハウスが完成し、開業を迎えました。

毎月の賃貸料は駐車場込で10万円ですが（経費はクラブ会費収入で対応）、スポーツ観戦の会場、会議室等としても活用できます。また、クラブのバスも購入し、地域住民に役立つクラブとして前進しました。既存施設を活用するという意識の高さがこれらの投資に結び付き、大きなチャンスとなったと考えています。



4 地域で選ばれにくい施設の指定管理者となる

クラブでは、さらなる安定したクラブ運営のために指定管理施設の確保を目標としました。競合する公共施設は避け、敬遠されがちな施設をクラブが再生するという意識のもとに「市民活動センターのぼりん」の指定管理者となりました。この背景にはグラウンド整備、クラブハウスの開業、総合型クラブとしての活動実績などの積み重ねが行政から評価されたと考えられます。地域住民目線による活動の構想、ホスピタリティの意識、リスクマネジメントなど、総合型クラブで学んだノウハウが現場で生かされています。

5 今後の展望

磯田理事長の発想、行動力は「一期一会」の活用です。これがクラブにとっての推進力となっています。それに加え、外出しがちな理事長をしっかり支えている事務局があるからこそクラブとしての成長を遂げています。今回の指定管理を受けた市民活動センターが、スポーツだけではなく市民活動と一体化した「総合型クラブ」としての大きな一歩と感じています。

（北海道クラブアドバイザー 久保田智）

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年2月27日

平成25年3月19日法人格取得

地域：北海道登別市全域

運営：会員数 250名（平成25年6月現在）

予算規模 2,700万円

特徴：10種目15展開の定期教室の開催と、Jリーグのサッカー教室などイベントも多数開催。地域FMをスポンサードしラジオ放送で市民活動を紹介する番組を開設。福島県総合支援事業を受託し、白樺の木を被災地に送り、その加工品の制作・販売を通じて得た収益金により被災地を継続支援するなど枠組みに囚われない幅広い活動を行っています。

連絡先：登別市富士町4丁目6番地2

TEL・FAX：(0143) 81-7444

E-mail：noboribetsusc@yahoo.co.jp

クラブHP：<http://onispo.web.fc2.com>

既存施設を上手に活用しているクラブ

コミスポクラブ東厨川^{くりやがわ}

～ 既存施設を改修しクラブの活動拠点として活用 ～



キーポイント

- 指定管理者と協力して既存施設の改修を実施
- 利用率の悪かった既存施設の利用率向上に貢献
- 行政に活動実績が認められ既存施設の指定管理者となる

1 クラブの概要

「コミスポクラブ東厨川^{くりやがわ}（以下、クラブ）」（岩手県盛岡市）は、東厨川地域で自主的な福祉活動を実践していた「東厨川福祉推進会」の会長が地区の体育指導委員（現スポーツ推進委員）や地区活動センター職員など、地域で活動している人たちに声を掛けたのがきっかけで設立された総合型クラブです。クラブ理念は「活動を通じて地区の青少年の健全育成と地域住民の生涯スポーツの推進を図りながら、安全で活力ある地域コミュニティの実現」であり、現在は11の教室やサークル、季節毎のイベント、地域の他団体と連携した事業等を開催しています。

今回は現在、クラブが指定管理者として事務局を置き、活動拠点にもなっている「盛岡市屋内ゲートボール場」の活用についてご紹介します。



2 指定管理者と協力して既存施設改修に着手

盛岡市屋内ゲートボール場は、平成17年度までゲートボール専用施設でしたが、夏季には使用する人がほとんどおらず、常駐の職員もいないような状態でした。そのような状況もあり、平成18年度から同施設の指定管理者が公募されました。そこで、クラブ設立に大きく関わっていた「東厨川福祉推進会」と岩手県内で生涯スポーツの普及・支援を目的に活動を行っていた「NPO法人スポレクRネットいわて」が協同で指定管理者への申請を行い、施設を多目的に利用できるように改修することを提案した結果、指定管理者となりました。クラブは当時、創設準備中であったことから、両団体と協力体制を取りながら、同施設の利活用方法について検討を行う方針としました。

指定管理者となった東厨川福祉推進会とNPO法人スポレクRネットいわては、指定管理料の中で、これまでゲートボール場としてのみ利用されていた施設を多目的に使用できるようにテニスコート1面を設置するとともに、施設内に防球ネットを張り、電球カバーの取り付けなどを行いました。これらの改修作業をクラブが指定管理者と一緒にやって行ったことで、施設改修後はクラブが優先的に施設を使わせていただくことができるようになりました。

その結果、平成18年12月にクラブを設立した時点でこのゲートボール場を活動拠点にすることができ、ほとんどの活動を同施設と隣の厨川地区活動センターで行うことができます。また、平成18年度にはクラブ以外にも多くの利用者がおり、施設は前年比約200%の利用率となりました。これは盛岡市の期待に沿う結果となったようです。



3 クラブが指定管理者となった効果

平成21年度以降の指定管理者募集にあたり、クラブが単独で指定管理者の申請を行うこととなりました。盛岡市に対しては「地域の施設は、地域の人たちで管理・運営していきたい」と訴え、盛岡市からはこれまでの活動実績や地域に根ざした運営が認められ、「盛岡市屋内ゲートボール場」の指定管理者になることができました。併せて、同施設をクラブ事務所として活用することへの許可をいただくこともできました。

現在は指定管理者として、より地域に密着した運営を心掛けており、地域の退職された方や主婦の方を5名雇用して施設の管理・運営を行っています。また、クラブ会員を中心とした地域住民が施設の修繕なども積極的に行ってくれており、予算内でトイレの改修を行うなど、利用者が使いやすい施設作りを目指しています。着実に地域に根ざした運営を行ってきており、地域の資源でもある「盛岡市屋内ゲートボール場」をうまく活用しながら、今後も活動を展開していきたいと考えています。

4 総合型クラブのロールモデルとして

最後に、盛岡市では平成25年4月に新たな「スポーツ推進計画」を策定し、その中で新たな総合型クラブの育成についても検討しています。クラブが、地域に根ざした総合型クラブのロールモデルとして、これから設立を予定している各地域の参考となるような活動、運営を続けていってほしいと思います。

(岩手県クラブアドバイザー 伊藤啓太)

クラブプロフィール

設立年月日：平成18年12月9日

地域：岩手県盛岡市東厨川地区(7町内会)

運営：会員数 237名(平成25年7月現在) 予算規模 約1,168万円(平成24年度)
地域に根ざしたクラブ運営(運営委員は各町内及びサークルから選出)

特徴：〒020-0127 岩手県盛岡市前九年3丁目9-27

連絡先：TEL・FAX：019-641-8484

E-mail：comispo.hk@jewel.ocn.ne.jp

クラブHP：<http://www.morioka-21net.com/comispo-hk/page04-okunai-gateball.htm>

[INDEXへ▲](#)

既存施設を上手に活用しているクラブ

熊本西総合型スポーツクラブ ～ 地域の学校体育施設などを有効活用 ～



キーポイント

- 行政の支援方針により小学校体育施設を管理（8校）
- 小・中学校体育施設の活用や、高校運動部活動と連携してプログラム展開
- クラブの取組みにより、多くの地域住民がスポーツする機会を創出

1 クラブの概要

「熊本西総合型スポーツクラブ（以下、クラブ）」（熊本県熊本市）は、平成18年5月7日に設立されました。8小学校区を対象としていることから「スポレク・エイト」という通称が浸透しており、地域の方々には「スポレク」や「エイト」の名前で親しまれています。

今回は、クラブが学校体育施設や公共施設を活用している取り組みをご紹介します。

2 小学校体育施設の優先利用・夜間管理

熊本市では、平成12年度に策定した「熊本市生涯スポーツマスタープラン」において、総合型クラブの育成・支援する方針を定めており、市内の総合型クラブに対しては、学校施設開放を通して、活動場所の確保や財政的な支援を行っています。

○活動場所の確保

- ・ 小中学校運動施設の年間優先利用（夜間）

○財政的な支援

- ・ 学校運動施設夜間管理業務委託

また、小中学生のプログラムに対しては、施設使用料は免除されますので、クラブとしては、財政面でかなり助かっています。

クラブでは現在、活動地域にある小学校8校・中学校2校の優先利用及びその中の3校の管理委託を行っており、市内の総合型クラブで最多の管理数です。その他、活動地域内には公立中学・高校や公民館、公園、野球場などがあり、いずれも必要に応じてクラブが活用しています。会員にとってはプログラムが近隣の学校施設で開催されますので、誰でも参加しやすい環境設定が可能です。特にミニバレーボールのニーズが高く、5つの小学校で実施されています。

また、体育館の倉庫も学校のご好意でクラブの用具を置ける場所を提供していただいているので、皆で使う用具の持ち帰りが不要となり、助かっているそうです。校長先生自らが、用具をたくさん置けるように棚を作ってくれた学校もあります。

3 熊本西高等学校のグラウンドを使用したラグラグビー

クラブでは、全国高等学校ラグビー選手権大会出場常連校である熊本西高校ラグビー部の協力を得てラグラグビーを開催しています。

クラブには以前より、ラグラグビー開催の要望があり、クラブ事業に参加いただいた方の中でお子さんが熊本西高校のラグビー部員である方がおり、同校ラグビー部監督と交渉していただき、教室を開設しました。

子どもたちは、毎月第3日曜日熊本西高校のグラウンドで、同校ラグビー部の指導のもとでラグラグビーを楽しん

でいます。芝生のグラウンドは気持ち良くて疲れにくく、子どもたちはとても楽しんでます。



4 中学校のグラウンドを使用した女子サッカー

クラブ設立当初、女子サッカーチーム「城山FCレディース」がクラブに所属することとなり、行政に掛け合い、中学校グラウンドの夜間照明施設をサッカーも利用できるように調整いただきました。その結果、これまで昼間の練習時間・場所の確保が難しかった女性の活動が充実し、平成24年度に文部科学省生涯スポーツ優良団体として表彰されました。

平成25年度から子どもも一緒に参加できるようにしており、毎週木曜日の夜に、親子で声を掛け合いながらボールを蹴り合う姿がみられます。



5 公園・野球場を使用したグラウンドゴルフ大会

グラウンドゴルフは近隣の公園や河川敷で愛好者が日々練習を行っており、クラブでは愛好者を集めて、毎月第4月曜日に公園と野球場が接する場所で大会を開催しています。

参加者は高齢の方が多いため、健康面を考慮し準備運動では市高齢者支援センターの専門職員による、グラウンドゴルフのスティック（クラブ）を使った柔軟体操が念入りに行われています。



6 今後の展望

現在クラブでは、近隣の学校施設を活用できていますが、利用人数が少ないプログラムが存在しており、会場使用料を節約するためにも、1つの会場で複数のプログラムを実施いただくようプログラム責任者に交渉中です。

また、山や海など地域資源に恵まれていることもあり、自然を体験できるプログラムを取り入れることを計画しています。より多くの住民に参加してもらい、地域のよさを知っていただきたいとのことです。

（熊本県クラブアドバイザー 永田好文）

設立年月日：平成18年5月7日

地 域：山あり海あり平地ありで、広範囲にまたがっている

運 営：会員数 335名(25年6月末現在) [小学生以下57%、50代以上31%]
年間予算 572万円(平成25年度)

特 徴：クラブの活動場所として活用できる施設が多い

連 絡 先：〒860-0067 熊本県熊本市西区域山大塘2-1-1 西部スポーツ内

TEL：096-200-8014 FAX：096-200-8014

E-mail：sporec8@iwa.bbiq.jp

[INDEXへ▲](#)